占いは情報サービス

「80人といったって、べつに神秘的でもなんでもないです。ただ普通の人より判断材料のキャパシティー（容量）が多いだけ」

いってもアッサリ、あっけらかんと微笑んだ。ちょっぴりいや思慮深い占いは神秘的でも宗教的でもない、一種の科学的だったという。

なんだか難しい話になってきたが、このあたりのことを深く掘り下げむには、孤独が思想を受けたた広義思想という、仏人、のことから始めた方が早道のようだ。

この、仏人、竹村さんがまだかわいらしい女だった中学二年の時、フラリと家にやってきて、そのまま五年間も居候を決めこんでしまった。

「自明はまた委託だったのね。会社を任せ置いたんが命日のあと、二〇歳に上げてしまったの。二、三日したら仏人が連絡したのかしら、全国から家元が集まってきました。」

「家元」とは、竹村さんの家に代々伝わる秘伝、人の心の見はない、「運命」というものに沿ってくり返そうと企てたのだった。

「占いには竹村やクロッカーなどといった道具があり、それぞれ長いの歴史はあります。しかし、それは古いのためのブラックボックスなんです。そこに情報を送り込むと答えが出てくる。それをどう読めるか、認識と意識によって運命を起こられるというのが、仏人のいう命学なんです。だからいえば、数学でいう問題によく似ています」

しかし、仏人は竹村さんの家に現れてから五年目、事あるごとに名の家系を受けどころで、大事に使ったあいだ、何も知らずに「一本字を書いた米一粒を残して逃げるように立ち去っていった。数年の出身だった、妻はピアニスト、娘も一人いる、家名も現在の所在地もわかっているというが、竹村さんは本来な無関心のほか、何も知らずに「ただ、あの、『ガラ』のオ石イ」

「不安」の陰に咲く徒花が—かつて占いは妖しさに満ちていた。いま、妖しさの世界は遊び道具になった。若者たちは、ひとつのファッション、ひとつのアクセサリーとして、占いとたわむれる。「その遊び心をバネにして幸運をつかんでほしい」—「占いの玉手箱」代表の竹村亜希子さんはこう語る。名古屋市東区葵一のユニーブル新栄の一室。こじんまりした仕事部屋でヒザつき合わせて聞くうちに、その美しい面差しについてクラッ。やっぱり占(仙?)人なのかなあ……。

エスに似た感覚だったが

「占いって、当ったのも偶然によって全く違うつ、ことがわかりました。私に出たのリ、クメイだ、運が強いかちゃまくいく、どういわれますが、私だけは思わない、良い悪いじゃなく、ほっていることをやってくのに、どうしたらいいのかを問題にするんです。自分の人生は自分で決めなくては。占いは、技術、指針、決定、行動が成り立つ。情報提供、ソフトのサービスなんです」

すいぶん見通しのいい話しっぷり。ここら見通しがよくていては、かえってつまらなくなるとも余かろうも。

「いいえ、人生みに縛られて、人生みに…ラフフフッ、私つて、オッチョコチョイなんです。しょくクーノーにハノントハノノ忘れちゃうの。あわてて思い出すから、バックが無くてくるのでこの忘れるんです」

ところで、占いの相談は、「わたしとカレは結ばれるのでしょうか」なんていうウブイイもろかな、子孫、セックスの悩み、結婚から人生問題、仕事、恋愛、そもそんなの名前で言ってもいいのだ。趣味嗜好の世界と考えてもいい。

占いは、まず手相から始める。掌をコピーして取って置く。その次が姓名判断。其体的な問題に対しては算竹で判断する。

ところで陰宅中は、相手の手をとり、じっと目を見つめる。秘密厳守のため、部屋の中には二人きり。男性なら、ふだんは人のまい、なかなかモーテリッシュなんでも、相手が相手だけについはしもの秘を起こさせないとも出ちない。

「さあ、私、そんなに魅力はありませんけども……。ただ明心のため鏡を二枚、対面させて置けばいたり、防犯ベルを三個、木刀を一振り常備しておりますの。それでも、けしからぬ気を起こす人は、よっぽど無謀な方なんですわ」

（ハイ、おっしゃるとおりです！）

ところで、けしからぬ気なども頂ありますから、あなたの生活のディテールを教えてください）

「普通は家系図と家紋、出身地、生年月日、もちろん度胆ひも、お客さまにはプライベートな関係はもちろん。風貌は水晶玉です。カーテンやリビアーの演奏が好きで、聴いていると、うんと死んでもいいって思っちゃうんです」

占いの専門書の他、スポ、性学などの秘書がさっしり。アクシミリ、コピー、ヒテすなどの《近代民器》も装備して、おとぎ占い師の部屋のイメーンはない。

二〇人以上のスタッフを抱える社長の才フィスといったイメージ。スタッフも、「先生」とは呼ばない。「先生といわれるほど偉ぶしていませんから」というわけだ。

お茶には今年も事務所を閉じて、断食に入る。

〈プロフィール〉たけむら・あきこ　名古屋市出身。占いの王様、主宰。小学二年生のとき占いに興味を持つ。中学二年入学から本格的に勉強。高校卒業後、三年間、銀行でOL。昭和五十五年、東京へ。人相、手相、姓名学、命学、数学などありゆる方法で占う。恋愛、結婚、就職などが多い。